



令和4年度 夏季研修会「あがらの夏」

8月22日(月)に南紀支援学校を会場として、一部オンラインも活用しながら、今年度も「あがらの夏」を実施しました。校区内の小・中学校や各市町教育委員会より40名を超える先生方に参加していただきました。

今年度は、特別な支援の必要な生徒の中学校段階から高等学校段階に至る移行及び進路選択の現状と課題について情報共有を図ることをねらいとして、本校高等部の取り組みの紹介や地域の高等学校である田辺工業高等学校に設置された通級指導教室での具体的な取り組みや南紀高等学校定時制の教育の概要やサポート等の取り組みに関して話題提供していただきました。その後、7つのグループに分かれ、小・中学校それぞれの段階でつけておきたい力について、情報交換を行いました。

参加してくださった先生方から、「各校の取り組みを知ることができ、今後の進路選択の参考になった。」「卒業後の姿をイメージして、小中でつけておきたい力について話し合えてよかった。」等感想を寄せてくれました。



【あがらの夏 情報交換会】

「進路学習・進路選択における対人関係・コミュニケーション、自己理解の課題について」小学校・中学校それぞれの段階でつけておきたい力について、情報交換を行いました。付箋に書き出された先生方が思われているつけておきたい力をカテゴリーに分けてみました。

【基本的生活習慣・生活リズムの確立】

【運動面】

姿勢・体幹・協調運動 自転車に乗るなどのスキル

【対人・コミュニケーションのスキル】

人の話を聞く 相手の意見を素直に受け止める 挨拶 ありがとう ごめんなさいが言える 語彙力 言葉づかい 電話のかけ方 ことば以外のコミュニケーションツールの活用 相手を思いやる など

【自己発信力】

自分の思いや考えを他者に伝える 困っていること、助けてほしいこと、不安に思うことを伝える グループ活動への参加(テーマに沿って話をする) など

【自己理解】

自分の強み・弱み 自分の体調・気持ちの状態がわかる 自分の長所に自信を持つ など

【自尊感情 自己肯定感を高める】

【回避・対応能力】

自分の状態や環境を把握して対処する方法 ストレス対応(発散)法 クールダウンの方法 気持ちのコントロール など

【物事に取り組む力】

最後までやり遂げる 自分で解決する 授業規律を守る 忘れ物をしない 物の管理 など



上記に示された子どもたちにつけておきたい力をそれぞれの学齢期に応じた学びで、習得していくことがこれからの進路選択、自立と社会参加につながっていくと感じました。来年度も「あがらの夏」よろしくお願ひします。

令和4年度 南紀はまゆう合同不登校対応研修会

令和2年度より、本校では不登校（欠席しがちな児童生徒）の正しい理解と、適切な支援や働きかけを行うことができるよう、紀南教育事務所の教育相談主事を講師として迎え、研修会を実施してきました。

今年度は、来年度の南紀支援学校との統合を見据えて、両校合同で不登校対応研修会を実施しました。研修会の目的は、不登校の現状と対応についての基本的な理解です。近年、和歌山県においても不登校傾向の児童生徒が増加しています。特別支援学校も小・中学校と同様に増加してきているとの話でした。研修で学んだ内容を一部お伝えします。

◇社会的に自立することを目指す

文部科学省から令和元年に出された「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」の内容にふれ、不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方として、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、「**児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること**」と教えていただきました。また本県の不登校対応基本マニュアルが改訂中との情報提供がありました。

◇児童生徒の支援カードの活用（本校は作成しています）

「児童生徒理解・支援シート」を活用することで、個々の児童生徒ごとに不登校になったきっかけや継続理由を的確に把握し、その児童生徒に合った支援策を策定することができます。組織的・計画的支援を行うために、ケース会議を活用し、アセスメント、プランニングを繰り返し行うことが、効果的な支援につながります。また学校現場では、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携することも効果的に対応するために有効です。

◇不登校からの立ち直りのステップ 滝川一廣著『子どものための精神医学』（医学書院）

1. 家のなかで子どもの気持ちが安定してきている。
2. 家族の気持ちも安定してきている。
3. 学校も子どもに関心をもちつつ見守ってくれている。
4. 子どもの生活にリズムが出てくる。
5. 子どもの生活リズムと家族の生活リズムの波長があってくる。
6. 子どもが家のなかで能動感をもってやれること、楽しめることを見つけている。
7. 遊びや趣味を楽しむだけでなく、ちょっとした家の用事や手伝いもするようになる。
※人に感謝される、人の役に立ちたいという気持ちがでてくる。
8. 子どもの興味や関心が、家の外の世界にも伸びはじめる。
9. これからどうしたいのか、学校をどうするか、将来の方向といったテーマについても、子どもが自分なりに考えてみたり、話しあったりできるようになってくる。
10. 子どもや家族が先の見通しが開けつつある実感をもちはじめる。
11. 先の見通しに向けての具体的な現実模索がはじまる。



お知らせ

NISE「特別支援教育リーフ」刊行

小・中学校等で初めて特別支援学級や通級による指導を担当する先生、特別支援教育について学ぶ機会がなかなか得られなかった先生に向けて、障害のある子どもたちがそれぞれの学びの場でより良く学び、充実した学校生活を送れるヒントとなる情報を記載した「特別支援教育リーフ」が順次刊行されます。

まずは、以下の2つが公開されています。ご利用ください。

Vol.1 ここからはじめてみよう、特別支援学級

Vol.2 障害のある子供も共に楽しむ体育の授業



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education